

## 市民協働による尾崎罌堂関係資料の整理・活用について

木村 弘樹

尾崎行雄を全国に発信する会

### はじめに

尾崎行雄（以下、号の「尾崎罌堂」と記す）は、現在の市内緑区又野出身の政治家である。罌堂は、明治23年（1890）の第1回衆議院総選挙から連続25回63年にわたり、明治・大正・昭和と日本の議会政治の黎明期から戦後に至るまで衆議院議員を務めている。そして、藩閥政治打破・議会政治の確立を追い求め護憲運動を行ったことなどから、「憲政の神」、「議会政治の父」などと呼ばれている。

相模原市立博物館（以下「当館」と記す）では、平成18年3月の旧津久井町との合併前後から尾崎罌堂に関わる資料の収集を始めた。収集資料については、資料所蔵者の意向により寄贈・寄託の2種類があるが、平成30年12月現在で尾崎罌堂に関わる資料数は、別添表1のとおり26件、938点に及ぶ。

本稿では、現在収蔵している尾崎罌堂関係資料938点の概要、平成29年度に同資料の再点検、整理、収納、目録作成を「尾崎行雄を全国に発信する会」（注1）への委託事業として行った「尾崎罌堂資料整理・目録作成事業」について記す。そして、その成果として平成30年度に尾崎罌堂記念館にて開催した企画展「明治期の資料に見る尾崎罌堂」についても紹介する。

### 尾崎罌堂関係資料の概要

現在、当館に収蔵されている尾崎罌堂関係資料は別添表1のとおり26件、938点である。その内訳は、寄贈資料が23件329点、寄託資料が3件609点で、一部「尾崎行雄を全国に発信する会」からの寄贈のほかは、ほとんどが個人からの寄贈・寄託である。

しかし、尾崎罌堂関係資料については、企画展などにおいて一部の資料を展示して活用を図ったのみで、寄贈・寄託資料に関する紙面での記載は、当館の『研究報告第16集2007』に「尾崎行雄関係文書目録」として天野望家からの寄贈資料を紹介した1件のみである。

本来であれば尾崎罌堂関係資料全点の資料目録を掲載すべきであるが、紙面及び承諾等の関係で難しいため、

ここではその主なものや特徴のある資料を紹介することとする。

#### ①天野望家寄贈資料

尾崎罌堂関係資料の中で最初に収集し、そしてこれまで最も多く展示などで活用されているものが、緑区鳥屋の天野望家からの寄贈資料である。この資料は、平成18年（2006）3月の旧津久井町と旧相模原市の合併を機に、津久井町長であった天野望氏より寄贈されたものである。天野家は、別添「尾崎罌堂関係系図」のとおり尾崎罌堂の妹千代子の嫁ぎ先であり、その関係で尾崎罌堂からの書簡のほか、生前尾崎罌堂自身が所有していた文書類、新聞・雑誌類、写真類など230点もの資料が残されていた。この天野家関係資料については、当館の『研究報告第16集2007』に「尾崎行雄関係文書目録」として紹介され、230点の資料目録も掲載されている。

#### ②服部行丸家寄贈資料

服部行丸氏は尾崎罌堂の晩年に罌堂を公私で支え、付き添った慶応病院の元看護婦服部フミ氏の甥（フミ氏は母親の妹で、かつ義母）である。服部家の資料は、平成19年（2007）に寄贈されたもので、尾崎罌堂と服部フミ氏の写る写真や罌堂を描いた絵葉書など全14点である。なお、服部行丸氏によれば、その他のフミ氏の遺品の多くは、平成初めごろに憲政記念館に寄贈されたとのことで、当館への寄贈資料についてはその後整理の中で出てきたものである。

#### ③峯尾実家寄贈資料

峯尾家は、別添「尾崎罌堂関係系図」のとおり尾崎罌堂の父尾崎行正の実家で、行正は嘉永4年（1851）に尾崎家の養子となっている。峯尾実家資料は、平成20年（2008）に寄贈されたもので、15点全てが写真資料であり、特に父尾崎行正や、尾崎罌堂の最初の妻繁の写真、尾崎罌堂の幼・青年期を含む写真などがあり貴重なものである。

#### ④戸田美紀子氏寄託資料

戸田美紀子氏は、別添「尾崎罌堂関係系図」のとおり尾崎罌堂の四男行輝氏の孫にあたる方である。戸田家の

資料は、平成 21 年（2009）に寄託されたもので、尾崎罌堂筆の書画、掛軸や、「祖父関係 佐々木清香保存」と明記のある箱に収められていた尾崎罌堂の長女佐々木清香が保存していた罌堂や行輝からの書簡など全 116 点もの資料群である。

#### ⑤尾崎行和氏寄託資料

尾崎行和氏は、別添「尾崎罌堂関係系図」のとおり尾崎罌堂の四男 行輝氏の孫になる。尾崎行和家の資料は、平成 22 年（2010）に寄託されたもので、罌堂筆の書画、掛軸、書籍類、書簡、短歌、演説草稿、写真（行輝氏やその子行良氏【寄託者尾崎行和氏の父】兄弟などが多い）など全 486 点もの膨大な資料群である。特に、尾崎罌堂が英国滞在中の明治 14 年及び終戦の昭和 20 年など直筆の日記や、与謝野晶子、鉄幹との短歌会にかかわる書簡などは特筆すべき資料である。

#### 平成 29 年度の「尾崎罌堂資料整理・目録作成事業」

これまでの当館への尾崎罌堂関係資料の寄贈・寄託については、「尾崎行雄を全国に発信する会」や「銚子罌堂会」（注 2）の団体からも一部あるが、ほとんどが個人からのものである。資料の寄贈・寄託の申し出は、当館への直接連絡もあるが、「尾崎行雄を全国に発信する会」を介しての申し出や情報が寄せられたものも多く、同会の存在は尾崎罌堂関係資料の収集において大きな役割を果たしている。

また、平成 26 年度より 28 年度まで 3 年にわたり博物館と「尾崎行雄を全国に発信する会」の協働事業にて、尾崎罌堂記念館の展示替え、企画展、講演会、ゆかりの地マップ作成、同マップを活用したツアー、尾崎罌堂ゆかりの里帰り桜（「罌堂桜」と名付けられている）の植栽・育成・配布などを行った。

そこで、平成 29 年度に委託事業にて尾崎罌堂関係資料の整理を行うにあたり、尾崎罌堂及びその資料について理解が深い「尾崎行雄を全国に発信する会」に本事業を委託することとした。委託事業の内容は、当館の古文書収蔵庫、特別収蔵庫に保管されていた資料の再点検、整理、収納、目録作成を行うもので、作業（写真 1）は平成 30 年 2 月 8 日から 2 月 22 日までのうち 5 日間で、同会員 6 名が延べ 76 時間参加して実施した。

その結果、尾崎罌堂関係資料については特別収蔵庫内の一つの場所に収納し（写真 2）、表 1 のとおり 26 件、938 点の目録を作成した。その中には、尾崎罌堂直筆の日記などこれまで注目されていなかった罌堂の活動や業績にかかわる貴重な資料があらためて確認された。

委託作業の結果、資料の良好な保存・管理を行うこと

ができ、今後の展示などにおいて有効的な活用を図ることができるようになった。その最初の成果として開催したのが、平成 30 年度の尾崎罌堂記念館での企画展「資料で見る明治期の尾崎行雄（罌堂）」である。

#### 尾崎罌堂記念館企画展

##### 「資料で見る明治期の尾崎行雄（罌堂）」

平成 30 年は、明治改元から 150 年、そして、尾崎罌堂生誕 160 年にあたる年であった。全国的に明治 150 年関連の企画展や事業が行われる中、尾崎罌堂記念館においても企画展の開催を計画した。この企画展の開催についても尾崎罌堂に関係する知識、人脈、資料の収蔵や所在状況などに明るい「尾崎行雄を全国に発信する会」への委託事業とし、同会と展示内容などについて検討を行った。

検討の結果、明治 150 年及び尾崎罌堂生誕 160 年に関連する展示で、かつ前年度に実施した尾崎罌堂関係資料整理・目録作成の成果を活かす内容とするべく、企画展のタイトルを「明治 150 年・尾崎罌堂生誕 160 年記念資料で見る明治期の尾崎行雄（罌堂）」とした。

この企画展は、平成 30 年 7 月 14 日から 9 月 2 日まで尾崎罌堂記念館の常設展示を一部展示替えして開催した。展示内容は、①父 尾崎行正と罌堂幼少期、②青年期の尾崎罌堂、③明治期にかかわった主な人物、④東京市長時代の尾崎罌堂の 4 つのコーナーを設けた。

①の父 尾崎行正と罌堂幼少期では、峯尾実家寄贈の写真資料や、記念館に隣接する和光家（尾崎家の敷地の現地管理を行っていた）寄贈の行正使用とされるヤリの柄などを展示した。②の青年期の尾崎罌堂では、著作物の発行年を記した年表とともに、『退去目録』など青年期の尾崎罌堂の著作物などを紹介した。③の明治期にかかわった主な人物としては、福沢諭吉、大隈重信など 8 人の人物を取り上げ、また、明治 14 年の英国滞在中の日記を展示し、大隈重信の爆弾襲撃を聞いたことなどが記された部分を公開した。そして、④の東京市長時代の尾崎罌堂では、明治 43 年（1910）のベルギーでの万国博覧会、米国訪問（桜の寄贈についても調整したと思われる）時の乗船名簿、歓迎会における席札などの展示を行った。これらの資料は初公開資料も多数あり、前年度の資料整理の成果を最も反映することができた。

また、関連事業として開催した 2 回の展示解説&ギャラリートークには、延べ 30 名の参加があり、参加者にはより深く展示の趣旨、資料の内容を理解していただけたであろう。

## まとめ及び今後の活用について

今回は、尾崎号堂関係資料を中心に、その概要、整理・目録作成事業と資料を活用した企画展について紹介した。尾崎号堂関係資料については、これまで天野望家資料以外は報告されていなかったが、その他の寄贈・寄託資料の概要について初めて紹介することができた。

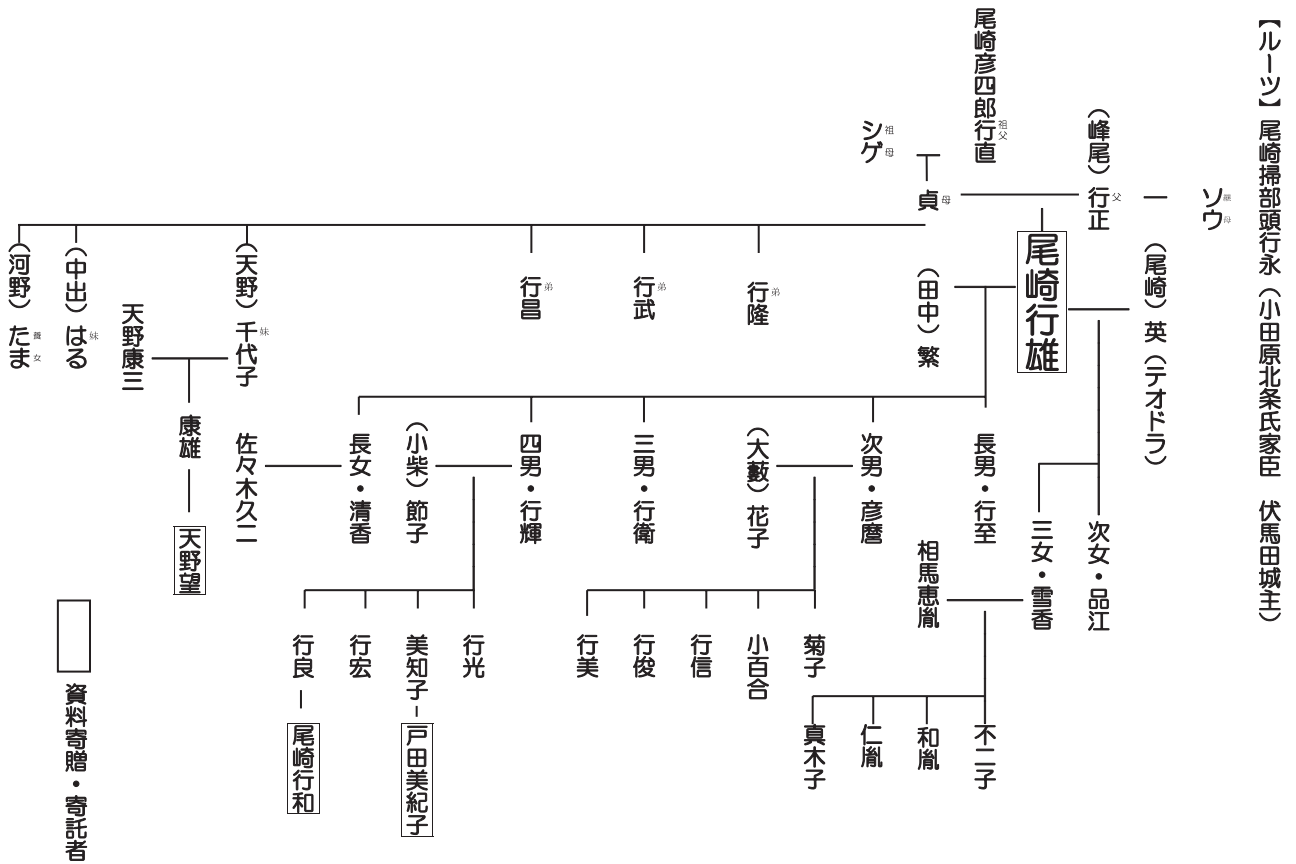
また、尾崎行雄を全国に発信する会への委託事業として実施した整理・目録作成作業の内容と、その成果とし

て開催した平成30年度の尾崎号堂記念館での企画展について紹介した。

当館では今後も引き続き尾崎号堂関係資料を良好に保存し、資料目録を活用し、企画展などで紹介を図っていく予定である。そして、市内出身の郷土の偉人である尾崎号堂の業績を少しでも多くの方に知っていただけるよう取り組んでいきたい。

表1 尾崎号堂関係資料目録

No	資料名	受入年月日	受入先	種類	数量	備考
1	天野望家寄贈資料	2006/3/20	個人	寄贈	230	『研究報告第16集 2007』に「尾崎行雄関係文書目録」として一覧掲載
2	長谷川一郎家資料 3-43-1~3 書「巻風雲」・「内郷小学校」・「内郷村青年会」	2007/4/26	個人	移動	3	小原本陣に収蔵していた資料。差出：惺堂 受取：長谷川君(3-43-1)備考：「津久井福祉事務所」の封筒入り。
3	服部行丸氏寄贈資料	2007/7/12	個人	寄贈	14	
4	峯尾実氏寄贈資料	2008/11/16	個人	寄贈	15	
5	掛け軸(尾崎号堂書ほか)	2009/7/14	個人	寄贈	5	
6	戸田美紀子氏寄託資料(掛け軸、書簡他)	2009/12/6	個人	寄託	116	
7	尾崎行和氏寄託資料(掛け軸、書簡他)	2010/2/24	個人	寄託	486	
8	尾崎号堂先生の知友の手になる『号堂先生印象録』を観光したいと思ひ立ちました件に就きお願ひ(執筆依頼)	2010/6/3	個人	寄贈	1	
9	尾崎行雄(号堂)筆 書画	2011/3/18	個人	寄贈	1	軸物
10	尾崎行雄(号堂)筆 書	2012/8/24	個人	寄贈	1	額装
11	尾崎行雄氏肖像画	2013/11/24	尾崎行雄を全国に発信する会	寄贈	1	縦117×横91cm油絵 昭和29年新妻園利作 銚子市越川家前所蔵→H29.6.13尾崎記念館に移し多目的室に展示。
12	『尾崎行雄全集』第一巻～第十巻	2013/11/24	尾崎行雄を全国に発信する会	寄贈	10	大正15年平凡社刊 銚子市越川家前所蔵
13	『号堂自傳』	2013/11/24	尾崎行雄を全国に発信する会	寄贈	1	昭和22年 大阪時事新報社刊 銚子市越川家前所蔵
14	『尾崎行雄傳』	2013/11/24	尾崎行雄を全国に発信する会	寄贈	1	昭和22年 一洋社刊 銚子市越川家前所蔵
15	『尾崎行雄全集』全10巻(平凡社版)	2014/3/28	市教育委員会生涯学習課津久井教育班	寄贈(移管)	10	
16	尾崎号堂筆扁額	2014/5/14	個人	寄贈	1	「義舜凌秋日」九三翁
17	尾崎行雄(号堂)書簡	2014/6/13	個人	寄贈	4	茅原華山受取(東京上大崎・内親社)。S15発表「偶感」の事前添削依頼。消印14.10.3 茅原華山受取(千葉銚子・大若町)別人筆の識作詞。「降伏直前書感」の封入 茅原華山受取(大若町)団体名誉職への就任依頼固辞と漢詩添削への礼辞 小野吉之受取(山梨北巨摩郡旭村)望月小太郎の当選援助依頼。本文は印刷。消印 T.4.3.19
18	尾崎号堂筆掛軸・扁額	2014/11/18	個人	寄贈	2	「土人」妙高で建設業をしていたころ佐々木家と関係あり。 「任屈伸」号堂 妙高で建設業をしていたころ佐々木家と関係あり
19	司法大臣 尾崎行雄先生筆掛軸	2015/11/12	個人	寄贈	2	
20	尾崎号堂掛軸	2016/5/15	個人	寄贈	1	
21	尾崎行雄書簡(本山健治宛)ほか資料	2016/12/16	個人	寄託	7	書簡1、選挙心得1、名刺1、護憲運動反対運動1、二文新報3
22	尾崎行雄掛軸「吊(巾)飯田三郎君 号堂行雄	2017/3/10	個人	寄贈	1	西川圭三氏の解説資料含む
23	和光家寄贈資料(伝尾崎行正使用のヤリの柄、号堂筆の額・書)	2018/4/1	個人	寄贈	4	ヤリの柄1、額1、書(セイヤチ他)2
24	号堂回顧録 上・下巻	2018/4/1	個人	寄贈	2	視聴覚ライブラリーの梶浦氏より受取りとのメモあり
25	尾崎行雄演説レコード	2018/4/1	銚子号堂会越川氏より尾崎行雄を全国に発信する会経由	寄贈	13	①普通投票に就いて3枚 ②収納袋に「尾崎行雄 3枚 1946吹込(録音)」との表記 ③収納袋に「尾崎行雄 7枚(損傷大)(平成)21年2月7日他」の表記 ①、②はH29にCD化、③はCD化不可
26	尾崎行雄漢詩集解説・手習帳ほか	2019/3/1	個人	寄贈	6	漢詩集解説4冊 手習帳1 和歌色紙1
26件				点数 938 点		



第1図 尾崎琴堂関係系図



写真1 資料の再点検、整理、収納作業



写真2 資料の再点検、整理、収納作業



写真3 企画展作業風景



写真4 企画展関連事業のギャラリートーク

企画展展示資料解説（尾崎行雄を全国に発信する会作成）

- ①父 尾崎行正と罌堂幼少期
  - (1) 陣中日記（加藤景末家資料）
  - (2) 尾崎行正写真
  - (3) 伝尾崎行正使用のヤリの柄
  - (4) 尾崎行正看護者一同の写真（大正5年）
  - (5) 尾崎行正と看護者6人の写真（大正5年）
  - (6) 尾崎行正から行昌（行正の四男）への書簡
  - (7) 尾崎行雄の写真（17、18歳頃）
  - (8) 尾崎行雄の写真（21、22歳頃）
  - (9) 尾崎行雄の写真（23、24歳頃）
  - (10) 尾崎行雄の写真大礼服（文部大臣又は司法大臣時）
  - (11) 尾崎行雄の写真和装2枚（年代不詳）
  - (12) 尾崎繁の写真（明治14年）
  - (13) 尾崎繁の写真（明治34年）
  - (14) 手控（尾崎繁の日記）（明治36年）
  - (15) 尾崎繁から尾崎行衛（行雄・繁の三男）への書簡



第2図 平成30年度企画展ポスター

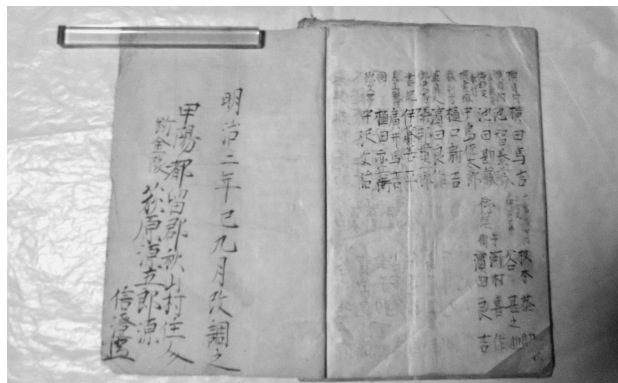


写真5 尾崎行正が参加した断金隊隊士の日記「陣中日記」

- ②青年期の尾崎罌堂（著作本・翻訳本などの紹介）
  - (1) 英国議院政治論（明治15から16年）
  - (2) 退去目録（明治21年）
  - (3) 権利提綱自序（文末に「琴泉少史尾崎行雄」）
  - (4) 愕堂集（明治42年）
  - (5) The Japanese Fairy Book（明治35年）
 その他、深く親交のあった人物などの著作等も紹介

③明治期にかかわった主な人物

- (1) 薫猶同記
- (2) 尾崎罌堂の日記 (明治 22 年)
- (3) 尾崎学堂宛末広重恭 (鉄腸) 作成文書 (明治 21) (『学堂』は当時の尾崎罌堂の号)
- (4) 北越興商会規則 (新潟新聞時代)
- (5) 新潟県会に参列した尾崎行雄写真
- (6) 文部大臣尾崎行雄→総理大臣大隈重信宛て休暇届
- (7) 政治小説「雪中梅」(末広鉄腸) (明治 19 年)
- (8) 「實業之日本 第 25 卷 3 号 大隈重信追悼号」 (大正 11 年)
- (9) 「土佐藩戊辰戦争資料集成」 (平成 12 年)



写真 7 尾崎市長の内郷村訪問写真

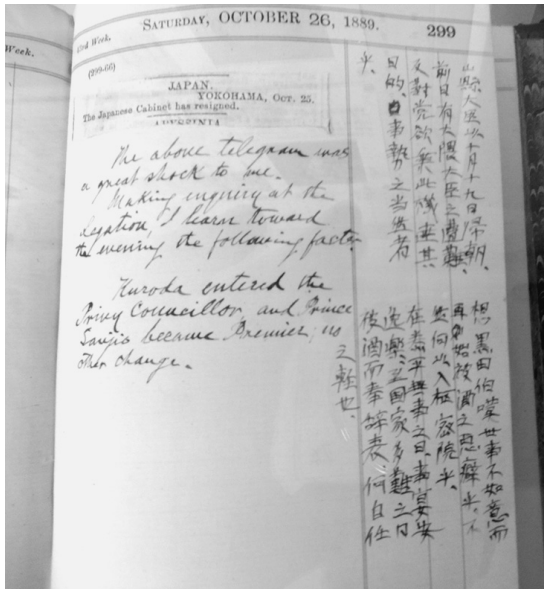


写真 6 明治 22 年の尾崎行雄の英国留学中の日記

注 1 「尾崎行雄を全国に発信する会」は、郷土の偉人尾崎行雄の業績を顕彰するため平成元年に発足した団体で、当初はドラマ化の要望を NHK に行うなどの働きかけを行った。現在の会員は 90 名で、近年は、尾崎行雄 (罌堂) 杯演説大会、米国に贈った桜の孫になる里帰り桜 (「罌堂桜」と命名) の育成・配布、尾崎罌堂記念館の各種普及事業に尽力している。

注 2 「銚子罌堂会」は、尾崎罌堂の支援団体の一つ。資料は同会の発起人の一人で、尾崎罌堂が銚子に來訪した際の宿舎として「思罌庵」を建てた越川芳麿氏が所蔵していたもの。

尾崎の選挙区は三重県であったが、人望が厚く、選挙区以外でも東京、逗子、銚子、川越、甲府、信越、名古屋、大阪、京都などに大小の有志の会があった。

④東京市長時代の尾崎罌堂

- (1) ホワイトハウスでの晩餐会カード (明治 43 年)
- (2) 日本帝国海外旅券 (尾崎夫妻) (明治 43 年)
- (3) 一等乗客名簿 White Star Line (明治 43 年)
- (4) 乗船名簿 米国訪問の帰路 (ホノルルから横浜まで) (明治 43 年)
- (5) 乗船名簿 サンフランシスコからホノルルまで (尾崎夫妻) (明治 43 年)
- (6) 英国支那艦隊隊員歓迎晩餐会席次表 (尾崎市長) (明治 42 年)
- (7) 生まれ故郷に大気焔 (明治 44 年「石老山」収録)
- (8) 日本新聞切り抜き (明治 44 年)
- (9) 尾崎市長の内郷村訪問写真～愛犬シヅと共に～ (明治 44 年)

参考文献

上田幸枝 2007 「尾崎行雄関係文書目録」(『相模原市立博物館 研究報告第16集 2007』所収)  
 相模原市立博物館 「平成 26 年度秋季企画展 尾崎罌堂 没後 60 年展～罌堂と支策の人々～」 展示解説書